

「神石高原」初の検定

来月23日
試験

観光や特産PR狙い

神石高原町観光協会が、町の名所や歴史などについて出題する「神石高原観光検定」制度を始めた。自然や観光資源、農作物が自慢の町をもっと多くの人々に知ってもらおうと初めて取り組む。町に観光ガイドが1人しかおらず、将来は成績優秀者に観光ガイドとして協力してもらおう計画だ。

試験は2月23日。出題は50問で、1問2点の1000点満点。80点以上を合格とし、トップ数人を「観光マスタースター」として表彰、町内で使える商品券（2千円相当）を贈る。合格者全員に、認定証と町の特産品のキャラクター4仙人のバッジを贈呈する。

問題は帝釈峡、仙養ヶ原、恋人の聖地となった「とよまつ紙ヒコーキ・タワー」などの観光名所や井伏鱒二の小説「黒い雨」にまつわる旧跡、山や神社、町の概要などからなるもので、4択式。観光協会ホームページと町広報に練習問題を掲載している。町のホームページなどの情報からも出題を予定している。

試験は23日午後1時半から同町小島の三和公民館で1時間。受験料は高校生以下700円、一般1500円。3月14日に合格者の受験番号を発表する。申し込みは1月31日までに観光協会（0847・85・2201）へ。
(野口拓朗)



町には、恋人の聖地となった「とよまつ紙ヒコーキ・タワー」など観光資源が少なくない。神石高原町下豊松